

# 市が3月末での廃止方針を撤回 デマンド型乗合タクシー存続決定！



## かすみがうら 市議会議員みやじま謙活動報告

### つばさ通信

第25号

#### 7月から1乗車600円・高齢者割引は廃止に

交通弱者の大切な移動手段であるデマンド型乗合タクシー（以下、乗合タクシー）について、市は今年3月での廃止方針を転換し、4月以降の存続が決定しました。乗合タクシーの廃止が打ち出されて3年。多くの市民の皆さんによる運動の勝利とも言えますが、跨線利用ができないなど、課題も多く残されています。

#### 期限ギリギリの存続表明

平成30年3月にまとめられた地域公共交通再編実施計画で、令和元年3月いっぱいでの廃止方針が示されていた乗合タクシー。その後、3000名の署名とともに存続・改善を求める請願が議会に提出され、議会でも趣旨採択されました。その後、市民団体から幾度

となく要望が市へ提出され、廃止時期が今年3月まで延期されました。

そして、いよいよ時間切れかと思われた3月議会でも、新年度の施政方針として、乗合タクシーの存続が表明されたのです。

存続とはなりましたが、利用料金が大幅に変更されます。

現在は1乗車400円で、65歳以上の高齢者・障害者および介添者・高校生以下は200円、3歳未満は無料ですが、新制度では1乗車600円、障害者および介添者、小学生以下は300円、未就学児は無料となります。そして高齢者割引は廃止となります。

その他の変更点としては、予約が取りやすくなるように予約アプ

リが導入されること、12〜13時にも予約受付をすること、などです。料金はじめこれらの変更は、7月から実施されるということです。

#### 懸念される利用者減

これまで継続して存続・改善を求めてきたひとりとして、存続決定の報を受け、「これで高齢者の足はと、ホッと胸をなでおろしたと同時に、

「結局、高齢者の料金を3倍にしただけ？この3年間の市民運動の労苦と利用者の心労は何だったのか？」との思いもあります。

市は、乗合タクシーの収支率を20%にするための値上げと説明していますが、料金を上げれば利用者数は減ります。これで収支率が改善されるか、大いに疑問が残るところです。

より多くの利用者を獲得するには、サービスそのものの魅力を高

める以外にありません。

#### 土浦協同病院への乗り入れを

例えば、以前は可能であった跨線利用（常磐線を跨いでの乗車）ができません。線路の反対側に行くには駅での乗り換えが必要で、料金も2倍になってしまいます。料金2倍は仕方ないとしても、乗り換えなしで使えるように仕組みを戻すべきだと思います。

また、要望の多い土浦協同病院への乗り入れも実現していません。その一方で、「空気を運んでいる」と揶揄される路線バス・千代田神立ラインの1便の平均乗車人数は1・7人で、年間経費は1400万円です。

もし乗合タクシーの跨線運行と土浦協同病院乗り入れが実現すれば、千代田神立ラインは不要になり、1400万円は、高齢者割引などにも活用できます。高齢者の運転免許返納後の生活を支えるためにも、改善を強く求めたいと思います。

## フードバンク活動にご協力をお願いします！

フードバンクとは、賞味期限内で安全に食べられるにも関わらず包装ミスや返品などで廃棄される食品や、ご家庭で余っている食品を集め、困っている人へ無償で届ける活動です。だれでもできる「食の助け合い」にぜひご協力ください。

#### 【寄付していただきたい食品】

2か月以上の賞味期限があり、常温保存できる未開封の食品（缶詰、レトルト食品、乾麺、インスタント食品、お米、お菓子など）  
※新規購入品も大歓迎です。

#### 【受付場所】

霞ヶ浦地区：あじさい館入口  
千代田地区：千代田ショッピングモール農協そば前  
※いずれも営業時間内



みやじま謙はNPO法人フードバンク茨城の会員です

# なぜ土浦市との境界に？ 突如浮上した複合交流拠点施設整備計画

### 利用者の半数は土浦市民？

令和3年度の予算に、市街地の複合交流拠点施設と公園用地（約29000㎡、事業費総額26億円）購入のための債務負担行為11億が盛り込まれました。債務負担行為とは、相手方との交渉の際の裏付けのために設定するものです。そしてその場所は、一昨年開通した神立停車場線よりも土浦市側、土浦市との境界線に接する「つくばハウス」（日立製作所跡地だということです。このエリアは下中地区の最南端、神立地区住

### 下中地区の中央に設置すべき

さらに解せないのは、当初の構想では用地面積5000㎡、床面積1500㎡であったものが、昨年10月に先方と交渉を行った際、「敷地全体約29000㎡ではどうか」との提案を受けたため、急遽計画を変更した、と



この場所なら土浦市と広域連携で

民の生活圏でもあり、ここに公共施設や公園が設置されれば、利用者の半数以上は土浦市民になる可能性があります。なぜこんな場所に、かすみがうら市単独の施設を建てようとするのでしょうか。

土浦市との境界線に交流拠点を設けるなら土浦市との広域連携で整備すべきで、かすみがうら市単独なら下稲吉地中地区の中心に、例えば稲吉ふれあい公園（約5000㎡）などを検討すべきです。

## 一年前の請願の成果 保育士助成制度スタートへ

『つばさ通信20号』でお伝えしました。令和2年第一回定例会に市内の保育士さんへの経済的支援を求める請願が提出され、反対する議員が多数を占めた結果、本採択となりませんでした。

仕事の大変さに比べて給与水準が低い保育士さん。他の自治体では月2〜3万円以上の補助を出して人材を確保する例もある中、かすみがうら市では、こうした補助がありませんでした。

しかし、一年前の請願・署名運動に加え、市への直接要望も出され、新年度予算に、保育士ひとり月額1万5000円の補助制度が盛り込まれました。

今回の制度開始で、やっと土浦市に並んだわけですが、つくば市は月額3万円です。魅力ある保育環境への道は、やっと始まったばかりです。

## 明日への思い

3月24日に終了した定例会に「日本政府に、核兵器禁止条約に署名・批准することを要望する意見書採択を求める請願」が市民から提出され、賛成多数で採択されました。

現在、世界には1万3000以上の核兵器があり、従来の強大な核兵器から、近年は小型化への転換が進められています。これは「使えない核」から「使える核」への質的変貌を意味し、これまでも言われてきた「核抑止力」は、すでに幻想であることを表しています。

今回の請願の採択は、「核兵器の使用のみならず、保有・開発も国際的に違法と位置づけ、核なき平和な世界実現のために、唯一の戦争被爆国の日本がイニシヤチブを取るべき」との明確なメッセージです。

## TOPICS

### コロナワクチン、高齢者は連休明けから

緊急事態宣言が解除されたものの、終息の兆しが見えない新型コロナウイルス。その切り札と期待されているワクチン接種の準備が、かすみがうら市でも進められています。

2月22日には模擬接種訓練がウエル

ネスプラザ体育館で行われ、手順の確認作業が行われました。

国からのワクチン配布情報が明確に発せられないため、今のところ当市では、5月連休明け頃から65歳以上の高齢者の接種が始められるのではと見込んでおり、高齢者の皆さんには接種券の発送が行われました。

しかし、ワクチンの入手時期が明確でないため、まだ予約は受け付けていません。65歳未満の一般の方については、まったく見通しが立っていないということです。ただし、コールセンター（029・853・0771）は設置されていますので、不明点はお問い合わせください。



模擬接種訓練の様子

# かすみがうら市と土浦市 力を合わせて未来を拓こう！



# 目指せ 2030年合併！